

2025 年度 前期日程 理科（化学基礎・化学）

出題意図

- I** 酸化還元に関する知識と計算力を問う問題である。
- II** 炭素原子を例とした物質の構成や構成粒子に関する知識を問う問題である。
- III** 反応速度と化学平衡に関する知識と計算力を問う問題である。
- IV** 無機物質の性質およびそれらの反応に関する基礎知識を問う問題である。
- V** アルコールの構造と名称、性質および反応に関する知識を問う問題である。
- VI** 高分子の構造や反応に関する知識と計算力を問う問題である。

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

## 2025 年度 前期日程 [理 科] 化学基礎・化 学 [解 答 例]

(全 6 枚のうち 1 枚目)

I	問 1	(1)	$\text{H}_2\text{O}_2 + \text{SO}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{SO}_4$ $(\text{H}_2\text{O}_2 + \text{SO}_2 \rightarrow \text{SO}_4^{2-} + 2\text{H}^+)$						
		(2)	過酸化水素	$\text{H}_2\text{O}_2 + 2\text{e}^- + 2\text{H}^+ \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$					
			二酸化硫黄	$\text{SO}_2 + 2\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{SO}_4^{2-} + 2\text{e}^- + 4\text{H}^+$					
	問 2	(1)	実験 1	$2\text{KBr} + \text{Cl}_2 \rightarrow \text{Br}_2 + 2\text{KCl}$ $(2\text{Br}^- + \text{Cl}_2 \rightarrow \text{Br}_2 + 2\text{Cl}^-)$					
			実験 2	$2\text{KI} + \text{Br}_2 \rightarrow \text{I}_2 + 2\text{KBr}$ $(2\text{I}^- + \text{Br}_2 \rightarrow \text{I}_2 + 2\text{Br}^-)$					
		(2)	(強) $\text{Cl}_2 > \text{Br}_2 > \text{I}_2$ (弱)						
	問 3	(1)	(計算過程) 濃硫酸溶液 1 L の質量は、1800 g で、その中に含まれる硫酸の質量は、 $1800 \text{ g} \times (98/100) = 1764 \text{ g}$ である。 硫酸 98 g/mol の物質量は、 $1764 \text{ g} / 98 \text{ g/mol} = 18 \text{ mol}$						
			答 18 mol/L						
		(2)	(計算過程) 1.0 mol/L 硫酸水溶液 500 mL を調製するのに必要な硫酸の質量は、 $1.0 \text{ mol/L} \times 0.5 \text{ L} \times 98 \text{ g/mol} = 49 \text{ g}$ である。 98% 硫酸の 1 L に含まれる硫酸の質量は、1764 g である。 よって、1mL 中には、 $1.764 \text{ g}$ の硫酸が含まれる。 $49 \text{ g} / 1.764 \text{ g/mL} = 27.777 \text{ mL}$						
			答 28 mL						
		(3)	(計算過程) 濃度不明の過酸化水素を X mol/L とすると、その 2.0 mL には、 $X \times (2.0 / 1000)$ mol の過酸化水素を含む。 滴定に要した過マンガン酸カリウム水溶液中には過マンガン酸カリウムが、 $0.10 \times (4.0 / 1000)$ mol 含まれる。 過マンガン酸カリウムと過酸化水素のモル比は 2:5 であるので、 $0.10 \times (4.0 / 1000) : X \times (2.0 / 1000) = 2 : 5$ $X = 0.500 \text{ mol/L}$						
			答 0.50 mol/L						

(全 6 枚のうち 1 枚目)

受験番号

## 2025年度 前期日程 [理 科] 化学基礎・化 学 [解 答 例]

(全6枚のうち2枚目)

		(ア)	(ヒ)	(イ)	(リ)	(ウ)	(ジ)	(エ)	(ギ)					
	問1	(オ)	(フ)	(カ)	(ケ)	(キ)	(セ)	(ク)	(エ)					
	問2	(計算過程) 原子の相対質量は、その原子の質量数に等しいとする。 $^{35}\text{Cl}$ の存在比を $x\%$ とすると $35.0 \times x/100 + 37.0 \times (1 - x/100) = 35.5$ であるから $x = 75\%$ 従って、 $^{35}\text{Cl} : ^{37}\text{Cl} = 75 : 25$ になる。												
II	問3	(1)	$^{14}_7\text{N}$			(2)	(a)							
	問4	(3)	(計算過程) 12.5% (1/8) に減少したことから、17190年は半減期の3倍に相当する。 従って、 $^{14}\text{C}$ の半減期は 17190年/3 = 5730年											
			答 $^{35}\text{Cl} : ^{37}\text{Cl} = 3 : 1$											
			答 5730 年											
			(計算過程) 1.0 g のグラフェンに含まれる炭素原子の数は $1/12.0 \times 6.0 \times 10^{23}$ である。1個のベンゼン環の炭素原子数は炭素原子2個分に相当するので、1.0 g のグラフェンには $1/12.0 \times 6.0 \times 10^{23}/2$ 個のベンゼン環が存在する。1個のベンゼン環の面積は、 $(1.40 \times 10^{-10} \times \sin(\pi/3) \times 1.40 \times 10^{-10}/2) \times 6 \text{ m}^2$ または $(0.70 \times 10^{-10} \times \sqrt{3} \times 1.40 \times 10^{-10}/2) \times 6 \text{ m}^2$ である。 従って、1.0 gあたりの面積は、 $1/12.0 \times 6.0 \times 10^{23}/2 \times (1.40 \times 10^{-10} \times \sin(\pi/3) \times 1.40 \times 10^{-10}/2) \times 6 = 1297.5 \text{ m}^2/\text{g}$											
			答 $1.3 \times 10^3 \text{ m}^2/\text{g}$											

(全6枚のうち2枚目)

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

## 2025年度 前期日程 [理 科] 化学基礎・化 学 [解 答 例]

(全6枚のうち3枚目)

III	問 1	(計算過程)									
		平均の反応速度 $\bar{v}_{1 \rightarrow 3}$ は、		$\bar{v}_{1 \rightarrow 3} = -\frac{(6.00 - 7.24) \times 10^{-2}}{3 - 1} = 0.62 \times 10^{-2} = 6.2 \times 10^{-3} \text{ mol/(L} \cdot \text{h)}$							
	問 2	同様に、		$\bar{v}_{3 \rightarrow 5} = -\frac{(5.06 - 6.00) \times 10^{-2}}{5 - 3} = 0.47 \times 10^{-2} = 4.7 \times 10^{-3} \text{ mol/(L} \cdot \text{h)}$							
		答 $\bar{v}_{1 \rightarrow 3} = 6.2 \times 10^{-3} \text{ mol/(L} \cdot \text{h)}$ , $\bar{v}_{3 \rightarrow 5} = 4.7 \times 10^{-3} \text{ mol/(L} \cdot \text{h)}$									
		4倍									
	問 3	活性化エネルギーがより小さい反応経路で反応が進行するため。									
	問 4	(計算過程)									
		$\text{HI}$ が 12.0 mol 生成したということは、 $\text{H}_2$ および $\text{I}_2$ はそれぞれ 6.00 mol 反応に使われていることになるため、平衡時の $\text{H}_2$ および $\text{I}_2$ の物質量はそれぞれ 2.00 mol である。したがって、平衡定数 $K$ は、									
	問 5	$K = \frac{[\text{HI}]^2}{[\text{H}_2][\text{I}_2]} = \frac{\left(\frac{12.0}{100} \text{ mol/L}\right)^2}{\left(\frac{2.00}{100} \text{ mol/L}\right) \cdot \left(\frac{2.00}{100} \text{ mol/L}\right)} = 36$									
		答 $K = 36$									
		(1)	左		(2)	移動しない					
		(3)	移動しない								

(全6枚のうち3枚目)

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

## 2025 年度 前期日程 [理 科] 化学基礎・化 学 [解 答 例]

(全 6 枚のうち 4 枚目)

問 1	(1) A (b) B (e) C (d) D (a) E (c)								
		A $\text{H}_2\text{SO}_4 + \text{BaCl}_2 \rightarrow \text{BaSO}_4 + 2\text{HCl}$							
		B $\text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{BaCl}_2 \rightarrow \text{BaCO}_3 + 2\text{NaCl}$							
		(3) $\text{AgCl}$							
		(4) $\text{CO}_2$							
		(5) $\text{Zn}(\text{OH})_2 + 4\text{NH}_3 \rightarrow [\text{Zn}(\text{NH}_3)_4]^{2+} + 2\text{OH}^-$ (右辺の化学式を $[\text{Zn}(\text{NH}_3)_4](\text{OH})_2$ と書いてても可)							
	IV	(1) (b), (d)							
		(2) (ア) $\text{CuS}$ (イ) $\text{Cu}(\text{OH})_2$ (ウ) $\text{CuO}$							
		(3) $\text{Cu} + 4\text{HNO}_3 \rightarrow \text{Cu}(\text{NO}_3)_2 + 2\text{H}_2\text{O} + 2\text{NO}_2$							
		(計算過程)  水に溶けた $\text{CuSO}_4 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$ : $30.0 - 5.0 = 25.0 \text{ g}$ $\text{CuSO}_4 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$ (式量 249.5) 水に溶解した $\text{CuSO}_4$ (式量 159.5) の質量を求める $\text{CuSO}_4 : 25.0 \times 159.5 / 249.5 = 15.98 \text{ g} \approx 16.0 \text{ g}$  (4) $\text{CuSO}_4 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$ を溶かした水の量を $x \text{ g}$ としたとき、20 °Cの飽和水溶液において、水に対する溶解度は 20 である。 よって、 $16.0 / (x + 25.0) = 20 / (100 + 20)$ $\therefore x = 71$							

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

## 2025年度 前期日程 [理 科] 化学基礎・化 学 [解 答 例]

(全6枚のうち5枚目)

V	問 1	ヒドロキシ基の水素結合によって分子同士が強く引き合うため。				
	問 2	(構造式)  $  \begin{array}{c}  \text{OH} \\    \\  \text{H}_3\text{C}-\text{C}-\text{CH}_3 \\    \\  \text{CH}_3  \end{array}  $ 2-メチル-2-プロパノール				
	問 3	(解答無) ※詳細は別紙参照				
	問 4	(計算過程)  化合物 5.40 mg について, 炭素 : $13.2 \text{ mg} \times 12.0 / 44.0 = 3.60 \text{ mg}$ 水素 : $5.40 \text{ mg} \times 2.0 / 18.0 = 0.60 \text{ mg}$ 酸素 : $5.40 \text{ mg} - (3.60 \text{ mg} + 0.60 \text{ mg}) = 1.20 \text{ mg}$ 組成式を $\text{C}_x\text{H}_y\text{O}_z$ とすると, $x : y : z = 3.60 / 12.0 : 0.60 / 1.0 : 1.20 / 16.0 = 4 : 8 : 1$				
	問 5	D	(解答無) ※詳細は別紙参照		E	(解答無) ※詳細は別紙参照

(全6枚のうち5枚目)

受験番号

## 2025年度 前期日程 [理 科] 化学基礎・化 学 [解 答 例]

(全6枚のうち6枚目)

	問1	(ア)	(イ)	(j)	(g)	(ウ)	(c)	(エ)	(k)	(オ)	(イ)
	問2	(構造式)									
	問3										
VI	問4	(計算過程)									
	問5	(計算過程)									
	(1)	PVAc の分子量は $86 \times 10^4$ であるから、そこから得られる PVA の分子量は、 $86 \times 10^4 \times 44 / 86 = 44000$ 。PVA のくり返し単位の式量は 44 であり、重合度の 重合度を $n$ とすると、 $44000 = 44n$ 、したがって $n = 1000$ 。									
		答 分子量 : $4.4 \times 10^4$ 重合度 : $1.0 \times 10^3$									
	(2)	(計算過程)									
		全てのくり返し単位にヒドロキシ基が一つ含まれており、そのうちの 50% をアセタール化した場合、PVA のくり返し単位とアセタール化した部分のくり返し単位(式量 100) の数はそれぞれ 500 と 250 となる。したがって分子量は、 $44 \times 500 + 100 \times 250 = 47000 \approx 4.7 \times 10^4$									
		答 $4.7 \times 10^4$									

(全6枚のうち6枚目)